

1 研究主題

自ら進路選択できる生徒の育成をめざして －進路選択に役立つ進路学習の実際－

2 はじめに

生徒の進路をめぐる環境や意識は大きく変化している。中学校における進路指導もその変化に対応することが強く望まれている。「働くこと」「学ぶこと」は、中学校3年間における進路指導の大きなテーマである。現在の自己を見つめ、将来の自分を思い描いて努力することは、生き方指導の面から重要な課題となっている。小牧市進路指導教育研究会では、この「自ら進路選択のできる生徒の育成をめざして」の大テーマのもと、数年間にわたり研究を続けている。

生徒個々の将来の夢が単に夢で終わらないように、より支援できる進路情報のあり方を求めていきたいと考え、研究を継続していきたい。

3 研究経過

一昨年度の私立高校における特色入試の開始や、昨年度の公立高校入試の前倒し、それに伴い送付資料が積算評定に変更されるなど、毎年、何かしら改革されている。今年度は公立高校におけるWEB出願が導入される運びとなった。昨年度の入試日程の前倒しで、例年より早く進路決定をしなければならなくなった中、さらにWEB出願に向けた10月の「全県試行」、コロナ禍明けの学校行事の復活など、昨年度以上に時間のない中で、たくさんある選択肢の中から吟味し、適切に選択しなければならない。

そこで、今までの進路指導の年間指導計画の再構築の必要が迫られた。ただ、何でも前倒しにして、生徒をせかせる指導をするのではなく、生徒自身が自ら考え、多くの進路情報を生徒が得る中で、生徒自身が「行きたい」と主体的に考えて進路選択をするための進路情報のあり方と、それをいかにタイムリーに提供するか手立てを検討したいと考えた。さらに進路指導を通して、困難に屈することなく立ち向かうことができ、心豊かな素敵な大人になってほしいと願った。

生徒への進路情報の提供方法として、進路説明会、体験入学、各種資料の配付などをこれまで行ってきた。各校で行われている進路行事の持ち方や、各学年での進路学習等について検討することを通して、生徒が進路選択する上で、より有効な手立てを考察したいと考え、研究に取り組んだ。

4 研究の概要

(1) 各種進路学習等の資料の収集と協議

小牧市内各校で行われている進路行事や進路学習、進路説明会等の資料を持ち寄り、情報交換と協議を行った。また、今年度は各校の進路指導の年間計画について情報交換を行い、1年生から3年生までの3年間の進路学習の積み上げについての各校の取組など、いわゆる「進学指導」だけでなく系統的な進路学習に関する報告もなされた。

各校の情報を共有することにより、今年度初めて進路指導主事を経験する教員はもちろんのこと、進路指導主事を経験したことがある教員についても、今後の進路指導につなげていく貴重なヒントを得ることができた。

(2) 総合的な学習の時間 職業人体験学習を通して

A中学校では、生徒が目的をもって主体的に進路選択ができるようにするために、系統的な進路学習が必要であると考え、以下のように取り組んだ。

1年生	2学期 3学期	身近な人の職業を調べよう 電話のかけ方 アポ取りなどのスキル学習
2年生	11月 12月 1月 2月	職業人体験学習 職場調べ 仕事の内容調べ 職業人体験学習実施 職業人体験学習で学んだことを発表しよう 卒業後の進路調べ
3年生	4月 5月 6月 7月～	学ぶ意味について考えよう 進路に対する不安を克服しよう 面接試験に備えよう 上級学校体験入学など

このように身近な人の職業調べなどを行い、職業人体験につながるよう計画した。職業人体験学習は新型コロナウイルス感染症の影響での中止を余儀なくされていたが、今年度から5類に移行したことで、再開する学校が徐々に増えている。また、事業所の受け入れも以前のように戻りつつあり、様々な職場で、それぞれの生徒が働くことの意義を学ぶことができた。また、職業人体験学習を実施できなかった学校では、職業人講話や電話インタビューをするなど、代替となる取組を工夫して実施できた。対応していただいた方からは、今後につながるアドバイスを多くしていただき、生徒たちにとっても多くの学びが生まれた時間になった。

5 今後の課題

職業人体験学習が単発にならないようA中学校では、1年時より身近な人の職業調べや電話のかけ方講座、マナー講座、働く大人へのインタビューなどを通して職業に関心を持たせる機会を設けている。また、職業人体験学習後もキャリアプランニングなどを通して、自らの将来について考えさせている。このように、具体的な進学先名をもとにした進路指導だけでなく、系統的な学習を通して、将来よりよい進路選択ができるよう生徒の育成を目指していきたい。